

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570102362		
法人名	社会福祉法人 松涛会		
事業所名	グループホーム フロイデ彦島		
所在地	山口県下関市彦島西山町3丁目12番1号		
自己評価作成日	令和2年7月8日	評価結果市町受理日	令和2年11月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
聞き取り調査実施日	令和2年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自分らしく穏やかに生きがいを感じたい」という理念のもと、入居者様・ご家族様一人ひとりに、今のような支援が必要で何を求めているのか、パーソンセンタードケアを取り入れ、一人ひとりに合わせた支援ができるように努めています。センター方式を活用し、言葉に出来ない真の思いに気付けるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居前には自宅や前施設を訪問されて、利用者が長年親しんで来られた習慣や好みなど、暮らしの様子を細かく収集され思いや意向の把握に努められています。日々の関りの中で、利用者の目線に合わせて寄り添われ、喜ばれたことや楽しまれていること、集中されていること、丁寧に組み立てられていることなどの表情や言葉、行動を「ふれあい記録」に記録され、「今、何を求めているのか」、一人ひとりの思いや意向を努められるように工夫をしておられます。利用者の状態の変化や状況を毎日チェックされ、家族にも報告されて相談しておられ、家族と共に利用者を支えておられます。家族からは、コロナ禍の中で外出や面会が自由にできないことから、「利用者が室内で楽しめることを計画して欲しい」と要望があり、紫陽花会やお菓子バイキング、室内で皆で楽しめるものづくりや運動など利用者、一人ひとりのペースに合わせて楽しみごとを計画して、実施しておられます。その様子を毎月、事業所便りの中で写真入りで家族に報告をされることで、家族も安心しておられます。理念に基づき、パーソンセンタードケアを軸に、利用者一人ひとりを尊重したケアを実践しておられます。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく穏やかに生きがいを歓喜に」という理念を掲げ、職員一人ひとりがいつでも意識出来る様、事業所の色々な場所に掲示したり出勤時には各自で暗唱し仕事に臨んでいる。またカンファレンス等で話し合う際は、理念に基づき職員皆が同じ方向で支援できるようにしている。	事業所独自の理念をつくり、事業所内の色々な場所に掲示し、職員が勤務中にいつでも理念を意識し確認できるようにしている。カンファレンスや全体会議の中で、理念に添ったケアになっているかを話し合い、利用者の思いや目線を大切にした支援を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(防災訓練・バスの乗り方教室・夏祭り・地域文化祭)に参加している。月に1度地域清掃に参加し、地域の方と交流を深めている。コロナウイルス感染予防のため、2月から行事が中止になっているため、参加できていない。	自治会に加入し、職員は月1回の清掃作業に参加している。利用者は、地域で開催している夏祭りや文化祭(干支の貼り絵を出展)、バスの乗り方教室、防災訓練に職員と一緒に参加して交流している。拠点施設主催の夏祭りやクラシックコンサートには地域から多くの参加がある他、ボランティア(コーラス、フラダンス、日舞)で来訪の人や、地域に開放している拠点の交流施設利用(法話やピアノ発表会など)の人等、様々な人と交流している。拠点施設は地域の災害時の拠点としての役割を担っており、地域の防災訓練にも参加、協力している。利用者は、公園に出かけた時や近隣を散歩時に会う人と挨拶を交わし、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、ホームでの取り組みや認知症の方の対応等の助言やアドバイスを地域の方にも伝えている。また、認知症カフェに参加し地域の方と交流も深めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全体会議にて自己評価及び外部評価を実施する意義について職員全員に説明している。自己評価を実施する事で職員一人ひとりが自分自身やケアの現状を見つめ直し会議等を通じて改善に取り組んでいる。	管理者は職員に評価の意義について説明し、自己評価をするための書類を全職員に配布し、記入してもらった後に、まとめている。自己評価は職員にとって日々のケアの振り返りとなっている。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立て、救命救急法やBLS研修を実施するとともに、緊急時の対応や食中毒、感染症等について学び、実践研修(ケガの処置や転倒防止、緊急時の対応)を実施しているなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議にて近況及び行事等を報告説明している。会議で出された意見やアドバイスは全体会議で取り上げ皆で話し合いサービスの向上に努めている。地域代表者からの行事の情報は入居者と地域との交流に繋がっている。また、会議内容は家族に配布し報告している。	会議は2カ月に1回(新型コロナウイルス感染症防止のため、3月と5月は中止)開催している。利用者の状況や行事報告、行事予定、自己評価や外部評価を報告の後、話し合いをしている。手づくりのおやつを出して、参加者との親睦が図れるように工夫している。参加者からは地域での行事の紹介や新型コロナウイルス感染症防止による外出自粛のため、利用者が室内で楽しむことのできる行事を計画して欲しいという意見があり、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の事業者係担当者とはいつでも相談できる関係である。運営推進会議には地域包括センター職員も参加しており情報交換を行っている。議事内容も議事録にて報告している。	市担当者とは、市主催の集団指導に参加した時や電話で情報交換を行い、申請内容や手続き、運営上の疑義について相談し、助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換を行い、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に身体拘束等の適正化のための指針を設置し、全職員が閲覧・確認できるようにしている。また、3カ月に1回身体拘束委員会を開催し適切なケアが行われるよう取り組んでいる。施錠については見守り職員が一人になることがあるため、安全面を考え止むおえず施錠することがある。	職員は「身体拘束等の適正化のための指針」をもとにした内部研修や、3ヶ月毎に実施している「身体拘束委員会」の中で学び、身体拘束、虐待の内容と弊害について正しく理解している。スピーチロックについても職員間で話し合い、気づいた時にはお互いに注意し合っている。玄関には施錠をしないで外出したい利用者とは、職員と一緒に出かけるなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルや関連した資料を全職員が閲覧できるようにしている。勉強会を行い、職員全員が理解し適切なケアが行われるように努めている。また入居者の状態を日々観察し変化があれば記録に残し、職員同士が話し合いの場を設け虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修などで学ぶ機会があり、個々の必要性に応じて活用できるように支援している。現在、成年後見制度を利用している入居者はいないが、必要であれば活用していきたいと思う。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が行っている。契約時に契約書、重要事項説明書の内容を1つ1つ読み上げて説明を行い理解、納得してもらえるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や 処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望 を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を 設け、それらを運営に反映させている	グループホーム玄関に意見箱を設置し、面 会時など気軽に意見や要望など出してもら えるようにしている。	相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理 手続きを明記して、契約時に家族に説明をし ている。家族からの意見や要望は、面会時や 運営推進会議参加時、年1回の家族会時、 行事(夏祭り、七夕、誕生日会)参加時の他、 電話でも聞いている。各ユニットに意見箱を 設置している。毎月、事業所便りを送付し、家 族の面会時や来訪時には気軽に話せるよう に雰囲気づくりに努めている。意見や相談は 「申し送りノート」に記録して職員間で共有し ている。家族からは面会制限や面会中止(市 内で新型コロナウイルス感染症患者発生の都 度)の解消時には早目に知らせて欲しいとい う要望があり、解消時には直ぐに知らせてい る。個別ケアに関する意見や要望は「ふれあ い記録」に記録して、計画に活かし、その都 度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者含む職員全員参加の全体会議や各 ユニットの会議では職員一人ひとりが意見で きるように、検討内容を記入する用紙を提示 しいつでも誰でも記入する事ができる。ま た、年に数回、管理者との個人面談を設け 管理者は代表者に相談、報告をし、運営に 反映させている。	管理者は、月1回ある各ユニット会議や事務 長が参加している月1回の全体会議のの中 で、職員の意見や提案を聞いている他、年に 2回、個人面談を実施し普段言えないことを 聞いている。会議の前には、予め「検討した い項目表」に職員が各々意見や提案を記録 している。法人では、年1回、職員全員に、 「ストレスチェック」を実施し、高い判定が出た 職員には、専門職による相談、支援をしてい る。管理者は、日常業務の中でいつでも気軽 に意見が言えるように雰囲気づくりに努めて いる。新人職員には出勤時や退勤時には管 理者の方から「困っていることはないか」と言 葉をかけ、一人で悩まず安心して勤務でき るように支援している。職員からは利用者を楽し ませる企画や備品(洗濯機等)の購入、勤務 変更等についての意見や提案があり、運営に 反映している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員一人ひとりの、性格や能力を把握し、それに合わせた役割を与え、やりがいを感じられるようにしている。ストレスチェックを行い職員の目には見えない状態なども分かるようにし、勤務体制を整えている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、施設内・外の様々な研修に参加の機会があるが、人員不足のため参加できていない。だが、事業所内で毎月違ったテーマで認知症研修を行うなどして、職員のスキルアップに繋げている。法人内で新人を育てるための研修も行っている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて、勤務の一環として研修参加の機会を提供している。今年度は管理者が管理者研修を受講している。受講後は資料を回覧し、月1回の全体会議の中で伝達して、職員全員が共有できるようにしている。法人研修は月1回、職員や消防署職員を講師に、救命救急法やBLS研修(心肺停止、呼吸停止時の救命)、交通安全、感染症等について実施している。職員教育指導者研修会に管理者が参加している。拠点施設合同研修は、職員を講師に身体拘束や高齢者虐待、接遇、マナー、紙おむつの当て方、新型コロナウイルス感染症等を実施している。内部研修は、職員が講師となって、認知症について、パーソンセンタードケア、認知症とは、認知症の種類、症状、周辺症状、対応の仕方等細かく区分してして、毎月実施している。新人職員は法人研修が終了後、日々の業務の中で、管理者や先輩職員の指導を受けて介護の知識や技術を働きながら学べるように支援している。資格取得のために勤務調整をして支援に努めている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前研修参加の際は、他施設の方と交流を図っており、意見交換も行っていた。法人内のグループホームが集まる合同会議では情報交換をし、互いのサービス向上を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にしっかり本人の思いや家族の思い・要望等を聞き、その上でプラン作成し、本人・家族に了承を得て実施している。入居後は本人の真の思いが知れるよう接する時間を多く取り、安心して過ごしてもらえるような支援ができるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際に契約書や重要事項説明書の内容をしっかりと説明し、グループホームで出来る事・出来ない事をきちんと伝えることで安心してもらうようにしている。面会時には細目に近況報告を行い、より良い信頼関係を築けるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からの意見・思いを聞き「今」必要な支援を見極め、その上で入居後に考えられる状況変化について、他サービスの紹介を含め、説明対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の意を表し、本人のペースや思いを大切にしている。同じ時間同じ場所を共に過ごす者同士、良い関係を築きながら、一緒に笑ったり、喜び合ったりする時間を大切にし、感謝の言葉を忘れずに伝えている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会や他行事の参加を呼び掛けたり、面会時には自室で家族とゆっくり過ごせるよう配慮している。また、本人の事で悩んだり困っている事を相談し合ったり、アドバイスをいただいたりしてより良い支援ができるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外でも、知人や友人、教え子の来訪があるほか、手紙での交流も支援している。家族の協力を得て外出したり、お墓参りや法事など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	家族の面会や親戚の人、職場の同僚、幼なじみ、ケアハウスの友人の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。新型コロナウイルス感染症防止のため、家族との面会制限や面会中止があることから、利用者や家族の希望があれば、携帯電話による利用回数を増やす支援をしている。家族の協力を得て、外食や一時帰宅、正月や盆の外泊等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士が楽しく過ごせるよう、食事の席や共有スペースの席を常に意識して環境を整えている。時には気の合う方を部屋に招きティータイムしたり趣味の時間を一緒に過ごしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に管理者が行っているが、契約終了後も家族が不安にならないように、病院などと連携し、相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の声に耳を傾け、本人の視点で考え一人ひとりに合った支援方法ができるよう努めている。また家族から知り得た情報や本人の発言内容を記録に残し、職員が共有できるようにしている。困難な場合はその情報をもとに本人本位に検討している。	入居前には自宅や前施設を訪問し、センター方式のシートを活用して、本人や家族から、長年馴染んだ習慣や好み、願いや支援して欲しいことなど、暮らしの様子を細かく聞いて思いの把握に努めている。日々の関わりの中で利用者に寄り添い、喜んだことや楽しそうにしていること、集中していること、丁寧に取り組んでいることなど、言葉や表情、行動を「ふれあい記録」に記録して、思いや意向、今、何を求めているのかなどの把握に努めている。把握が困難な場合は、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人、家族、ケアマネからの情報を集めたり、センター方式(B-3)を活用したりと、これまでの人生を把握できるように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録(ふれあい記録)に毎日の様子や活動を記録し、職員全員で共有できるようにしている。状態の変化などあれば、色を使い分ける等の工夫をし、現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	長期・短期プラン終了の際には本人の思いや家族の要望など聞き入れカンファレンスを行い、プラン作成に反映させている。また様子の変化に応じて臨時でカンファレンスを行いプランを変更することもある。必ず全員の意見を聞き、話し合い、ケアプラン作成を行っている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員、管理者を中心に、月1回、カンファレンスを開催している。本人の思いや家族の意向を聞き、主治医、訪問看護師の意見を参考に話し合い、介護計画を作成している。毎日、目標をチェックし、1ヶ月毎にモニタリングを実施し、3ヶ月毎に見直しをしている。利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ふれあい記録、バイタル・排泄・食事摂取量の記録を個別に作成していて、職員全員が共有・把握している。私の姿シートはすぐに書きこめるようにしてあり、プランを見直す際はプランの実施状況と合わせて見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設という利点もあり、様々な行事参加や、設備の使用など、他部署との連携もあり、その時の状況に合わせて、柔軟にサービスが提供できるように取り組んでいる。家族から要望があれば遠方の家族に手紙や電話での近況報告も行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ドライブを兼ね、近くのスーパーに買い物に行ったり、散歩し公園に行ったりと、本人が安心して楽しめるような支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医を紹介し説明した上で、同意を得ている。月2回主治医による往診があり、近況報告している。電話やメールでの相談、報告も随時行っており、常時連絡が取りあえる体制を整えている。また、以前からのかかりつけ医も受診できるよう、連携を取り情報共有している。	本人及び家族の納得を得て協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療がある他、週3回、訪問看護師の来訪があり、利用者の健康状態に関する助言や指導を受けている。薬剤師も訪問診療時に来訪している。薬剤師は薬の分包をして来訪し、与薬指導や相談を受けている。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は「受診記録」に記録して、職員間で共有し、家族には面会時に口頭で伝えている。24時間オンコール体制であり、協力医療機関の指示を受けて、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週三回訪問看護師が来所し、様子をみてもらっている。介護士と看護師の信頼関係が築けており、気兼ねなく相談したり指示を受けることができる。24時間体制なので、緊急時にいつでも適切な指示を受け対応できるようになっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、速やかに情報提供・交換を行い早期の退院ができるよう努めている。入院中も、現状報告や相談等、情報交換を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化に関する説明や、本人や家族の意向を確認している。状況の変化があった場合には、主治医や看護師、家族に相談しながら、以降に沿えるよう支援できるようにしている。終末期に関しては体制を整えていない。	「重度化による看取りに関する意向確認」に基づき、契約時に家族に説明をして同意を得ている。実際に重度化した場合は、早い段階から本人や家族の意向を聞き、主治医や看護師と話し合い、方針を決めて共有し、医療機関や他施設への移設も含めて支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	急変・事故発生時に備え、BLS研修などに参加し実践力を身に付けている。また事故発生時には速やかに報告書を作成し事故対策委員会に提出報告し、さらには今後の事故防止のための事例検討を行っている。	事例が生じた場合は、事故、インシデント報告書に状況や原因、再発防止策、家族への対応を記録し、回覧して職員間で共有している。法人の事故対策委員会へ報告を行い、全体会議で再度検討して、一人ひとりの事故防止に努めている。職員は年1回実施している救命救急法とAEDの使用法の講習を受講している。法人研修や拠点施設合同研修、内部研修で緊急時の対応やBLS研修、食中毒、脱水症、感染症、新型コロナウイルス感染症等について学び、事例検討を通して、ケガの処置や転倒時の対応、緊急時の対応についての実践研修を実施している。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立会いのもと、昼・夜想定での避難訓練を行っている。避難経路や消防設備の使用方法など実演して身に付けている。また朝礼で消防設備の種類・位置を皆で確認している。年1回、土砂災害訓練も別に行っている。	年2回、消防署の協力を得て、拠点施設合同で、昼夜の火災、地震、風水害を想定した通報訓練、避難訓練、避難経路の確認、消火器、消火栓の使い方について、自治会や地域住民、利用者も参加して実施している。年1回、拠点施設合同で土砂災害訓練も実施している。職員は毎朝、消防設備の場所の確認をしている。自治会主催の防災訓練には、職員も利用者も参加し、災害時の協力について話し合っている。拠点施設は、地域の災害時の拠点施設でもあり、緊急連絡通報装置には自治会長、副会長が加入し、地域との協力体制を築いている。災害時の非常用食品を備蓄している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉かけや場面に合わせた対応をするように心がけている。その人にとって理解しやすい言葉や距離、声の大きさで声をかけている。入居者に関する耳に入ってはいけない会話などは、入居者にわからないように配慮している。	職員は法人や拠点施設研修、内部研修の中で接遇や倫理、個人情報の取り扱い方について学ぶと共に、管理者からの日頃の言葉のかけ方(声のトーン、強さ、話しかける位置、わかりやすい言葉)の指導を通して学び、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録の保管や取り扱いに留意し、守秘義務は遵守している。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が理解しやすく意思表示がしやすいように、絵に表したり、字で表現して工夫している。また、本人からのサインを見落とさず思いに沿えるように努めている。			
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や、意思や希望などを尊重し、ケアプランなどを行う際は本人のペースで過ごせるように支援している。			
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室に本人持ちのドレッサーや化粧道具を備えている方もいる。洗面所に鏡を設置しているので、自身で見だしなみを整えることができる。一人で行なえない方でも、職員が一緒に行う事でその人らしいおしゃれができるように支援している。			
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや状態に合わせ、変更したり食べやすい状態にしている。皿や盛付け等も工夫し、目で見ても食事を楽しめるようにしたり、職員も一緒に食事の席に着き、会話も楽しんでいる。食後は一緒に茶碗を洗ったり、拭いたりしている。	食事は三食とも法人の配食を利用し、ご飯は事業所で炊いている。利用者の好みや状態に合わせて形態や食器の工夫をして、食欲を高めるように支援している。利用者は、テーブルを拭いたり、ランチョンマットの準備、食器を洗う、食器を拭くなど、できることを職員と一緒にしている。静かな音楽が流れる中で、利用者と職員は同じテーブルについて、会話を楽しみながら食事をしている。お菓子バイキングやパンケーキづくり、ケーキのつく誕生日食、季節行事食(おせち料理、節句の寿司、土用の鰻、ソーメン流し、クリスマス、年越しそばなど)の他、家族の協力を得て外食等、食事を楽しむことのできる支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がバランスの取れたメニューを考え提供している。食事量、水分量はそれぞれ個人ファイルに記録しており、足りない時は高カロリー食などを提供し補うようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士から一人ひとりに合ったケア方法を教えていただき、実践している。起床時、毎食後に口腔ケアを行ない清潔保持に努めている。義歯は夕食後に預り毎日洗浄、消毒している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人別に排泄表に記載している。表から排泄パターンや習慣を知り、一人ひとりに合わせた方法で、本人からのサインを見逃さないようにしトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合った言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。紙パンツやパットを利用する時には根拠をはっきりさせて、家族にも説明をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳やヤクルトを飲用したり、適度な運動を取り入れたり、水分補給を促したりして、自然排便を促すように努めている。一人ひとりに合わせた予防にも取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現状は3日に1回のペースで入浴している。希望があればいつでも入れるように対応している。季節によっては、菖蒲やゆずなどを入れ、入浴の時間を楽しんでいただいている。	入浴は毎日、10時から12時までの間としているが、希望すれば午後でも入浴できる。順番や湯加減、季節の菖蒲湯や柚子湯等、利用者の希望に応じてゆったりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、入浴時間や順番を変えたり、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭や足浴、シャワー浴、シャワーチェアの活用等、個々に応じた入浴の支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は決めておらず、一人ひとりのその日の様子を見ながら、昼夜問わず安心して横になれるように支援している。室温、照明、音等本人の好みに合わせている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に薬のファイルを作っており、薬の説明などすぐに確認できるようにしている。当日の服用薬は時間別、個人別に管理しており、服薬時には職員2名でダブルチェックを行い、誤薬防止に努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の俳句や刺繍、家事や出来る事をして他者や職員と一緒に喜び合ったり、張り合ったり、毎日を楽しく過ごせるように支援している。センター方式を活用しケアプランに反映させ一人ひとりに合った内容を提供できるよう努めている。	カーテンの開閉、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、花を生ける、花瓶の水を換える、テーブルを拭く、ランチョンマットの準備、食器を洗う、食器を拭く、新聞紙でゴミ箱づくり、繕いもの、テレビやDVDの視聴、本や雑誌を読む、折り紙、ぬり絵、習字、日記をつける、俳句をつくる、刺繍をする、お手玉、歌を歌う、カラオケ、干支の壁画づくり、カレンダーづくり、かるた、トランプ、坊主捲り、風船バレー、ボール遊び、ラジオ体操、リハビリ体操、テレビ体操、棒体操、口腔体操、脳トレ(計算、漢字、四字熟語、間違い探し)、パンケーキづくり、お菓子バイキング、クラシックコンサート、季節行事(文化祭、祭り、お月見、雛祭り、紫陽花会、バレンタインデー)、買物、外出、散歩等、利用者一人ひとりに合った楽しみごとや活躍できる場面を多くつくり、利用者が気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1日1回はホーム外に出掛けられるよう努めている。個人的に外出する場合は、家族の協力や、他部署の協力もあり出掛けることができる。季節ごとの行事(初詣・花見・地域祭等)も外出支援できるよう支援している。	周辺の散歩や海を見に行く、季節の花見(梅、桜、紫陽花、紅葉)、ドライブ(長府庭園、彦島八幡宮)、初詣に出かける他、家族の協力を得て、外出、外食、一時帰宅、外泊等、一人ひとりの希望に添って出かけられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望がある場合は家族と相談の上、支障ない程度に現金を所持している。行事や買い物支援で実際にお金を使う機会もあり、その際は支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族や友人といつでも電話で話せるようにしている。年賀状や手紙も書けるように支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の色々な場所に花を飾ったり、季節に合わせた手作りの飾りを置き、その季節を感じられるように工夫している。大きな窓から入る自然の光や音、風邪も感じられるように、その時々に合わせて、職員側で配慮している。	玄関や廊下、海が見える休憩コーナーに、椅子やソファ、籐椅子を置いて、利用者が思い思いの場所でゆったりとくつろげるように工夫している。玄関には手指消毒の準備をし、季節の花が生けてあり、廊下の壁面には利用者の作品や絵画を飾って、気持ちが落ち着くような雰囲気づくりができています。温度や湿度、換気、清潔に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中でも、テーブルごとに気の合う仲間に分かれたり、そのときどきの状況に合わせて、職員側で配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明の際、本人の馴染みの物や、使い慣れた物をできるだけ持って来てもらうようにして、本人の居心地の良い空間になるようにしている。	テレビやベッド、ソファ、箆笥、鏡台、机、椅子、テーブル、籐の洋服掛けスタンド、パイプスタンド、趣味の雑誌、アルバム、ぬいぐるみなど、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、人形やカレンダー、家族写真、自作品の短冊、折り紙、習字を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせ、わかりやすいように表記したり、居室に名札を付けたりと安全に自立した生活が送れるように支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム フロイデ彦島

作成日：令和 2 年 11 月 2 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	事故防止の取り組みや事故発生時に備えて研修や勉強会で学んでいるが、全職員が応急手当や初期対応等の実践力を身に付けるには至っていない。	全職員が緊急時にきちんと初期対応や応急手当をすることができる。	事例が生じた場合に状況や原因、再発防止策、家族への対応を記録し回覧することによって情報共有を図る。 月に1回全体会議を行っており、合わせて勉強会を実施し、緊急時の対応など学ぶ。 年に1回実施している救命救急やAEDの使用 方法の講習を受講するようにする。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。